

a 学校教育目標	生き生きと学び 郷土の宝となる 児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 「知・徳・体」の基礎基本が身につく、ふるさとに誇りを持つ児童の育成 ~ 自己を愛し、夢を語る児童の育成 ~ 【ビジョン】(自校の将来像) ・基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・地域を支え郷土の宝となる人材を育て、地域・保護者から信頼される学校
----------	-----------------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方針		学校関係者評価		
c 中期 経営目標	d 短期 経営目標	e 目標達成 のための方策	f 評価項目・ 指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	基礎学力の定着	○各種学力調査において個別期待値を設定し、評価指標としていく。	・設定した個別期待値を80%以上が上回る。	80	83.3	100%	A	第6学年の児童は、すべての教科において、全国平均以上の正答率をとることができた。特に、昨年度、3学期に実施した標準学力調査において算数科において課題がみられた児童も、今回のテストでは、ABともに全国平均以上の結果が出ており、これまでの本校の取組の成果が現れているものと受け止めている。個別期待値を越えている児童は、83.3%おり、目標を達成できた。	第6学年の結果は、着実に基礎学力が定着している結果がでているが、他の学年においても、授業改善、指導方法の工夫を行い、基礎学力定着と主体的に学ぶ力を育成する。第6学年においても、さらに学力を伸ばせるよう、今後も取り組む。アンケートに「あまり・まったく」あてはまらないとした児童への聴き取りを行い、個々の状況を細やかに把握し、それぞれの実態に応じた取組をする。特に、「分からないことを質問したら、分かった(間違いが減ったなど)」という場を意図的に仕組み積み重ねていく。加えて、学習内容を自分の言葉でまとめさせたり表現させたりする時間を設定し、その内容について対話をさせることで、自分の分かっていないことを明確にさせたり、友達の見え方から学びが深まったりすることを実感させたり。また、その足跡が残る板書や児童のノートのまとめになるように工夫し、振り返りの内容を的確に書いているノートを取り上げ評価(称賛など)をし、意欲を継続させる。対話を深めるための手立てについては、児童と共に確認し、意識的に活用させていく。	○			・小学校の授業を見て、答えは分かっているのになぜかねくり回すのかと不思議に思っていたが、答えを出す過程が大切だということを感じた。 ・取組の課題を指導者が見抜いて、方向付けをすること、方言の仕方を変えることが大切だと思った。小学校でやっていることは大切であり、基本的なことを学んでいると思った。	
	主体的に学ぶ力の育成	○算数科を中心に複式学級・少人数指導における、主体的な学びを追求する。	・算数科を中心に、各単元ごとに具体的な手立て(学習の進め方・ノート)を工夫し定着させる。	80	84.6	106%	A	昨年度からの取組継続により自分たちで学習を進めるという児童の意識を高く保つことができている。高学年では、問題解決型学習の流れが児童に定着し、主体的な学びにつながっている。課題発見解決型への学習の流れに発展させていく。アンケートで「友達と自分の考えの共通点・相違点など見つけようとしている」「友達の考えを聞き分からない時は質問をしている」などに「あまり・まったく」あてはまらない」とする児童が数名おり、固定化している。これは、対話を意識した集団解決が依然として不十分なためと捉えている。		○				
豊かな心と健やかな体の育成	自分を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校	体力づくりの推進	○「体力・運動能力検査」の下位種目・平均値レベルの種目を継続的に取組にして、伸ばしていく。	・「体力・運動能力検査」の全国平均以上種目を80%以上にする。	80	73.6	92%	B	体力テストで全国平均以上の種目は、全72種目中53種目であった。(73.6%) 全校的には、昨年度の「持久力」「走力」の課題が克服され、昨年度の取組が一定の成果をあげていると考えられる一方、依然として「握力」が課題に残り、取組を改善していく必要もある。また、「ボール投げ」(投力)も新たに課題に上がり、さらに学年別では、「上体起こし」(腹筋力)〔低学年〕、「柔軟性」〔中学年〕、「走力」〔高学年〕に課題がみられ、それぞれの課題に対する取組が必要である。	2学期から、課題に学がった運動(握力・ボール投げ)を全校の重点課題とし、朝の会や休憩時間を利用して、継続的に課題を克服するための運動に取り組みさせていく。また、個人で全国平均に達しなかった種目については、児童と個別に面談し、越えられそうな種目を確認して、目標と取組を設定する。そして、取組の評価と目標達成状況をこまめに把握し、確実に達成できるように取り組む。	○			・学力は身に付けば向上していくが、体力は自分の力には限界があってすぐにできることではないから難しいと思う。目標の設定を、個人の目標が達成できたらよいとしたらどうなのだろうか。その子にとっては100%以上出していることを評価してもよいのではないかと思う。
		○全校で取り組む「さぎしま一周マラソン・一輪車・体づくり運動」等を活用した体力づくりを推進する。	・各取組の目標達成をめざすカード等を活用し、達成度100%にしていく。	100	90.9	91%	B	1学期に体力テストを実施する際、個人別に作成した「ステップアップカード」(昨年度の個人記録や県の平均値を明記したもの)を配付し、今年の目標をもたせるなどの取り組みを行った結果、意欲的にテストに向けて練習に取り組む姿がみられた。ただ、十分に生かしきれなかった児童もおり、今後、2回目のテストを実施する際には、カードを用いて意欲を高める取組を丁寧に行う必要がある。	2学期以降、「一輪車発表朝会」「第2回目の体力テスト」「マラソン大会」等の行事に向け、各種カードを活用して、個人の体力課題や個人目標を明確化させ、自主的・意欲的に体力づくりに取り組む児童を100%にしていく。 「一輪車カード」は、運動会を見据えた各学年の到達目標(目安)を明示し、また、6年間を通して使えるようなカードに改良をする。	○				
信頼される学校づくり	地域を支え郷土の宝となる人材を育て、地域・保護者から信頼される学校	小小・小中連携の推進(同学年・異学年交流)	○小小・小中の授業・諸活動交流、海外交流を年間を通して実施していく。(授業研究・諸活動・読書活動)	小小の授業交流(年間3回) 小中の生徒指導の交流(年間6回) 異学年交流、海外交流の諸活動及び読書活動交流(年間10回以上)	100	100	100%	A	小中連携において、各学校の生徒指導上の課題を出し合ったり、各学校の校則や「生活のきまり」を交流したりした。また、卒業生の様子も交流し、課題を共有しながら、統一した生徒指導ができるよう話し合いを進めている。他校との交流としては、中々町小学校のPTA行事に参加をしたり、中々町小学校の一部の児童と海辺教室の体験活動をしたりとすることができた。さらに、小中で統一した指導を行い中一ギャップを減らせるよう、また、同じ中学校に進学する児童同士の交流を深められるよう取り組んでいく必要がある。 異学年への「読み聞かせ」活動は、2学期以降に取り組む計画であるが、児童に負担がかりすぎないように配慮する必要がある。	小中連携として、2学期11月に、中々町小の学校行事(演劇鑑賞会)に合流参加予定。また、本校の公開研究会を小学校間の授業交流の機会と位置付け取り組む。 小中連携として、今後、中学校進学に向け、6年生の連携を重点的に取り組む。二中の教員に授業を見てもらったり、児童へ話をしてもらったりする。 異学年への「読み聞かせ」活動は、2学期以降、図書委員会の活動とリンクさせ取り組ませる。	○			・充実したカリキュラムだと思う。子どもの成長によって教える内容も変わっていく。先生方の努力は大変なものがあると思う。 ・さまざまな行事に取り組んだことによって、子どもは自信を持つことができている。達成感を持たせる取組になっている。 ・今後も引き続き、さぎ島ならではの取組を行い、子ども達一人一人の目標に応じた達成度を評価してほしい。
		特認校として、特色ある教育活動(英語教育)の推進	○特色ある英語教育を研究・実践し、島の学校の魅力ある教育内容としていく。	学期ごとの活動型英語を仕組み、地域や保護者に成果を公開して肯定的評価を受ける。(80%以上)	80	87.5	109%	A	1学期、地域や行政機関と連携して、島を訪れる外国人との交流の機会を設け、魅力ある活動を行うことができた。また、テレビ電話を利用した海外の小学校との交流も開始ができた。さらに、それらの活動を学校便りやHP面、報道機関を通じて、島内外の人に広く情報発信をすることができた。 現在、地域や保護者から、たくさんの特長ある活動が実施されていることへの肯定的な声が多数寄せられており、上記の成果ととらえている。	本校の公開研究会の取組や、2学期以降のALTとの活動を増やす取組を充実させ、ALTとコミュニケーションをする機会を増やすとともに、児童が英会話の必然をつくるような活動の場の設定を行い、児童の英会話への主体的な態度を育成する。 2学期以降、実施する英語に関わる体験活動を、課題発見解決的に実施し、児童の英語の学習への意欲や達成感、充実感を味わえるようにする。	○			

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)&lt;100

C:60≦(もう少し)&lt;80 D:(できていない)&lt;60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。

ロ:自己評価は適正でない。

ハ:分からない。